

株式会社 ハルミ

2017度環境活動レポート

(対象期間:2017年 5月～2018年 4月)



(網干事業所)

発行日: 2018年10月1日
改定日: 2019年3月26日

株式会社 ハルミ

環 境 方 針

当社は産業廃棄物収集運搬及び廃プラスチック、廃汚泥等を破碎・混練処理して、セメント用助燃剤に再生するリサイクル産業におけるパイオニアとして、産業廃棄物処理業を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減の為に省エネルギー(電力・ガソリン・軽油等削減)に取り組みます。
3. 受託した産業廃棄物の再資源化に取り組み、リサイクル率の維持・向上を図ります。
4. 水使用量の削減に取り組みます。
5. グリーン購入に取り組みます。
6. 環境に配慮した処理に取り組みます。

制定日：2015年10月26日

代表取締役社長
隅田 佳春

I. □組織の概要（情報公開項目に＊印付記）

（１）名称及び代表者名

株式会社 ハルミ
代表取締役社長 隅田 佳春

（２）事業所及び所在地

本 社 〒671-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家 1 1 0 3 - 2
本社事務所 〒671-1241 兵庫県姫路市網干区興浜 2 1 1 3 - 1 0
網干事業所 〒671-1241 兵庫県姫路市網干区興浜 2 1 1 3 - 1 0
飾磨事業所 〒671-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家 1 1 0 3 - 2
積替え・保管施設 〒671-8079 兵庫県姫路市飾磨区今在家東荒新田 1 0 9 6 番 2

（３）環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先

責任者 取締役事業所長 隅田 修 TEL：079-271-3111
担当者 取締役事業所長 隅田 修 TEL：079-271-3111

（４）事業内容

産業廃棄物処分業（中間処理・破碎及び混練）
産業廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
セメント用代替燃料・原料製造

（５）事業の規模（2017年度実績）

＊売上高 291百万円
・産業廃棄物の処分量 5,950トン
・産業廃棄物の収集運搬量 5,950トン

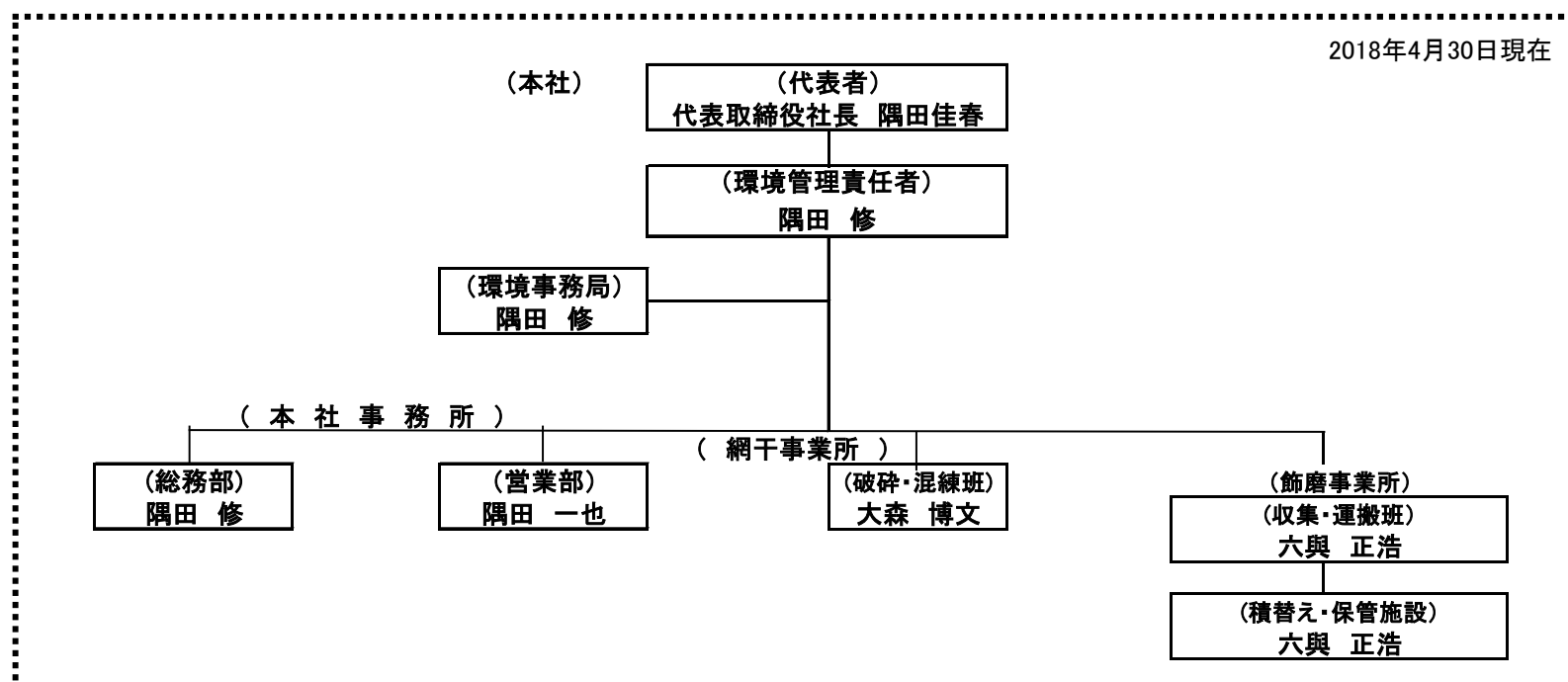
	本社・飾磨事業所	本社事務所・網干事業所	合計
従業員（人）	7	7	14
延べ床面積（㎡）	442	1,778	2,220

（６）事業年度： 5月～翌年4月

（７）＊法人設立年月日： 平成5年9月16日

（８）＊資本金： 10百万円

（９）＊組織図



※2018年9月1日付で、取締役事業所長 隅田 修は、代表取締役に昇格した。

(10) *許可の内容

■ 産業廃棄物処理業許可
・中間処理施設

許可番号	姫路市 第 07021022937 号
許可の年月日	平成 30年 3月 5日
許可の有効期限	平成 35年 3月 4日
事業計画の内容	主として、兵庫県内の事業所から廃プラスチック類及び汚泥等を収集し、破碎してセメント用助燃材として供給する。
事業の範囲	(1) 中間処理(破碎) (2) 中間処理(混練)
事業の区分	(破碎・混練)
施設の種類	(1) 破碎施設 (2) 混練施設
処理する廃棄物の種類	(1) 破碎
	・廃プラスチック類
	・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃ガラスくずに限る。)
処理能力	(2) 混練
	・燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、ばいじん
	(1) 破碎施設 廃プラスチック類 4.7 t/ 日 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 3.3 t/ 日
	(2) 混練施設 76.8 m3 / 日

■ 産業廃棄物収集運搬業許可

許可自治体	兵庫県	岡山県	
許可番号	第02825057761号	第03307022937号	
許可年月日	平成31年1月14日	平成30年6月17日	
有効期限	令和6年1月13日	令和5年6月16日	
積替保管	無	無	
許 可 品 目	汚泥	●	
	燃え殻	●	
	廃油	●	
	金属くず	●	
	木くず	●	
	廃プラ類	●	●
	がれき類	●	
	ガラスくず・コンクリートくず及び 陶磁器くず	●	

■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可

許可自治体		兵庫県
許可番号		第02854022937号
許可年月日		平成31年1月14日
有効期限		令和6年1月13日
積替保管		無
許可品目	汚泥	
	燃え殻	
	廃油	●
	紙くず	
	木くず	
	廃プラ類	
	金属くず	
	がれき類	
	ゴムくず	
	ばいじん	

(11) * 施設等の状況

■ 産業廃棄物収集運搬用車両

車 両 の 種 類	最大積載量	台数
4t脱着コンテナ車	4,000 kg	3
脱着コンテナ	1,800 kg	15 箱
8tユニック	8,000 kg	4
4tユニック	4,000 kg	1
4tパッカー車	4,000 kg	1
4t平ボディ車	4,000 kg	1
4t箱型ボディ車	4,000 kg	1
8t箱型ボディ車	8,000 kg	1
10t箱型ボディ車	13,700kg	1

■(積替え・保管施設)

保管面積	保管上限	積替え保管を行う廃棄物の種類
315 m ²	34 m ³	廃プラスチック類

■ 産業廃棄物処分用施設

・中間処理

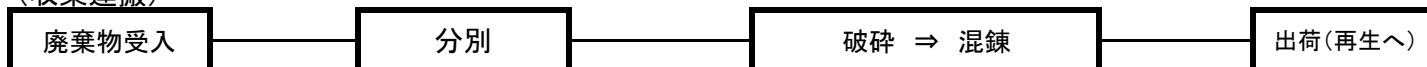
施設の種類	破碎機	混練機
設置数量	2基	1台
処理する廃棄物の種類	廃プラスチック ガラスくず等	廃プラスチック 汚泥等
処理能力	3.3~4.7t/日	76.8 m3 / 日
処理方式	破碎	混練

・中間処理用車両

車 両 の 種 類	最大積載量	台数
大型ショベルローダー	4,000 kg	2
フォークリフト	2,500 kg	4

(処理工程図)

(収集運搬)



(12) * 処理実績(2017年度・受託した産業廃棄物量)

収集運搬量	5950t
中間処理量	5950t

II. 口認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名：

株式会社　ハルミ

対象事業所：

本社
本社事務所
網干事業所
飾磨事業所
積替え・保管施設

対象外：

無

活動：

産業廃棄物処分業（中間処理・破碎及び混練）
産業廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
セメント用代替燃料・原料製造

III. 主な環境負荷の実績

項　目	単位	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	268,780	265,299	313,403
電力使用量	kWh	125,599	125,278	182,570
ガソリン使用量	L	14,058	13,344	13,056
軽油使用量	L	64,999	64,368	71,557
（廃棄物排出量）				
一般廃棄物排出量	kg	0	0	0
最終処分量	t	0	0	0
総排水量	m ³	591	857	949

※　化学物質は使用実績なし。

IV. 環境目標及びその実績

(1) 中長期目標

項　目		年　度	基準値	2016年度	2017年度	2018年度
			(基準年度) 2015年度	目　標	目　標	目　標
I. 二酸化炭素	kg-CO ₂		268,780	266,092	263,404	260,717
排出量合計(下記項目合	対基準(%)		100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
① 電力使用量削減	kWh		125,599	124,343	123,087	121,831
	kg-CO ₂		65,563	64,907	64,252	63,596
	対基準(%)		100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
②ガソリン使用量削減	L		14,058	13,917	13,777	13,636
	kg-CO ₂		32,638	32,312	31,985	31,659
	対基準(%)		100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
③軽油使用量削減	L		64,999	64,349	63,699	63,049
	kg-CO ₂		170,579	168,873	186,436	184,534
	対基準(%)		100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
II. 廃棄物排出量の削減	kg		0	0	0	0
①一般廃棄物の削減	対基準(%)		100	(△-%)	(△-%)	(△-%)
②受入廃棄物の リサイクル率の向上	リサイクル率(%)		100	100	100	100
	対基準(-)		---	---	---	---
III. 水使用量の削減	m ³		591	585	579	573
	対基準(%)		100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
IV. グリーン購入	品目		2	実態調査	3	4
			(2016年度)	(実績2)		
	対基準(-)				(+1)	(+2)
V. 環境配慮 破碎処理における環境配慮 (破碎機の稼働管理・粉じん・騒音・臭気等)			稼働管理	稼働管理	稼働管理	稼働管理
	対基準(-)			維持・向上	維持・向上	維持・向上

※電力による二酸化炭素排出量は、関西電力(株)の平成25年度の二酸化炭素排出係数 0.522 kg-CO₂/kWh(実排出係数)を用いて算出した。

(2)対象期間中の実績

項 目 \ 年 度		基準値	対象期間における実績			
			(2017年5月～2018年4月)			
		2015年度	目標	実績	達成度(%)	評価
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	268,780	263,404	313,403	84.05	×
	対基準(%)	100	△2%	16.6%		
① 電力使用量削減	kWh	125,599	123,087	182,570	67.42	×
	kg-CO ₂	65,563	64,251	95,302		
	対基準(%)	100	△2%	45.3%		
②ガソリン使用量削減	L	14,058	13,777	13,056	105.52	○
	kg-CO ₂	32,638	31,986	30,312		
	対基準(%)	100	△2%	△7.1%		
③軽油使用量削減	L	64,999	63,699	71,557	89.02	×
	kg-CO ₂	170,579	167,168	187,790		
	対基準(%)	100	△2%	10.0%		
II.廃棄物排出量の削減	kg	0	0	0	100	○
①一般廃棄物の削減	対基準(%)	100	100	0%		
②受入廃棄物の リサイクル率の向上	リサイクル率	100	100	100	100	○
	対基準(%)	100	100	100		
III.水使用量の削減	m	591	579	949	61.01	×
	対基準(%)	100	△2%	60%		
IV.グリーン購入	品目	2	3	3	100	○
	(2016年度)					
	対基準(%)		(+1)	(+1)		
V.環境配慮 破碎処理における 環境配慮 (破碎機管理-分じん・騒音・臭気)	-	稼働管理実施	稼働管理実施	稼働管理実施 確認	—	○
	対基準(-)	(-)	(-)	(-)		

注)評価欄 ○:達成、△:やや未達成、×:未達成

※電力による二酸化炭素排出量は、関西電力(株)の平成25年度の二酸化炭素排出係数 0.522 kg-CO₂/kWh(実排出係数)を用いて算出した。

V. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量合計		(目標未達成)
下記、各取組計画による。	×	目標を達成できなかった。
電力使用量の削減		(目標未達成)
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	産業廃棄物量が増加したため目標値を達成できなかった。 左記取組を継続する。
・生産工程の待機時間短縮	○	
・昼休みの消灯	△	
・不要照明の消灯	○	
・OA機器の省エネモード設定	○	
・生産設備のムダ防止	○	
・圧縮空気洩れの定期点検・修理	○	
ガソリン使用量の削減		
・アイドリングストップ	◎	(目標達成) エコドライブが功を奏して目標達成となった。 今後もエコドライブを継続する。 左記取組を継続する。
・急加速の抑制	○	
・冷房の控えめ使用	○	
・買換え時は燃費マークを優先する	—	
軽油使用量の削減		
・アイドリングストップ	○	(目標未達成) 産業廃棄物量が増加したため目標値を達成できなかった。 左記取組を継続する。
・急加速の抑制	○	
・冷房の控えめ使用	○	
・買換え時は燃費マークを優先する	—	
廃棄物排出量の削減		
(一般廃棄物の削減)		(目標達成)
・一般廃棄物の全量再資源化处理	◎	一般廃棄物の全量の処理ができた。 左記取組を継続する。
(受入廃棄物のリサイクル率の向上)		(目標達成)
・受入品の全量再資源化处理	◎	入荷受入れ品の全量の処理ができた。 左記取組を継続する。
・分別の徹底による有価物化	◎	
水使用量の削減		(目標未達成)
・破碎機散水量の適正管理	×	産業廃棄物量が増加したため目標値を達成できなかった。 左記取組を継続する。
・手洗い水量の適正化	○	
・雨水の利用	×	
グリーン購入		実績調査・G対象品の調査を実施した。
	—	グリーン購入の単位を品目とした。この購入実績品目数を基準値として次年度購入目標を設定して調査及び購入を推進する。 左記取組を継続する。
・G対象品の調査	○	
・事務用品グリーン購入品目数の調査	○	
破碎処理における環境配慮(破碎機管理)		(目標達成)
		取組の適正実施により周辺より苦情もなく適正に管理出来ている。
・散水量の適正管理	○	左記取組を継続する。
・破碎機点検整備	○	
・処理棟開閉管理 等	○	

VI. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項(施設・物質・事業活動等)	遵守評価
廃棄物処理法	受入廃棄物の分別・保管・適正処分	遵守
自動車リサイクル法	使用済営業用乗用車、トラックの登録事業者へ引渡し	実績なし
家電リサイクル法	廃出時の適正排出(処理料金負担・小売店へ引渡し)	実績なし
自動車NOx・PM法	排ガス基準遵守・車検証確認	遵守
オフロード法	排ガス適合車両の使用(適合ラベル確認)	遵守
消防法(危険物)	・指定可燃物(RPF)貯蔵・取扱上の技術上の基準遵守 ・消防設備の設置・点検記録	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反、訴訟、或いは環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

VII. 代表者による全体の評価と見直し

今回、産業廃棄物量が増加したため、電力、軽油、水使用量の目標値を達成できなかった。そのため、ガソリン使用量の削減はできたが、結果的に二酸化炭素排出量は大幅に増加した。しかし、今後、問題意識を持ち、速やかに改善する体制を強化していきたい。

2018年10月1日 代表取締役社長 隅田 修